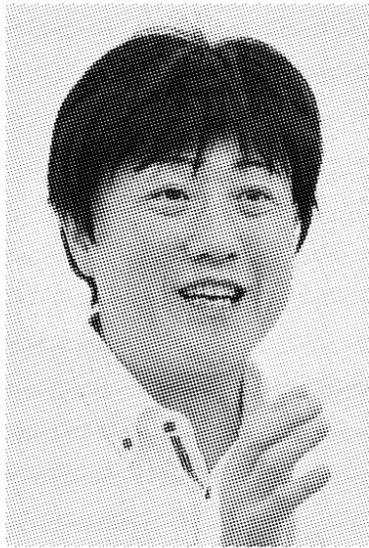


外部技術融合で新価値

横河電機で長年にわた

り分散型制御システム

「CENTUM」における制御ネットワーク（Vnet/IP）の企画・開発を手がけた赤羽国治さん。定年後も横河マニユファクチャリングでODM（オリジナルデザイン）マニユファクチャリング推進本部副部長として腕を振るう赤羽さんに仕事の極意を聞いた。



横河マニユファクチャリング ODM推進本部副部長

赤羽 国治氏

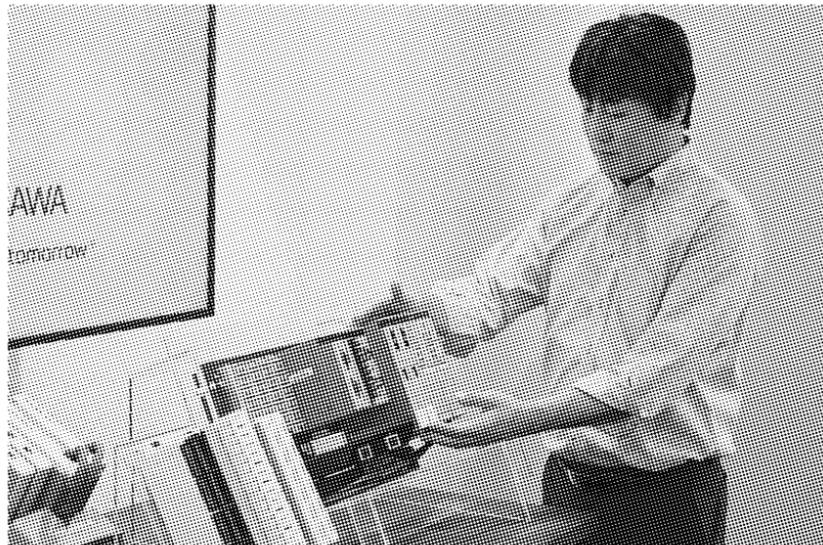


「CENTUMのシステム規模を拡大し、適用範囲を高めた『制御ネットワーク（Vnet/IP）』の企画・開発を長年手がけた。現在はODM推進本部副部長として、『お客様にとって魅力的な機能を実現すること』と『工場で効率的に製造できる設計を行うこと』を両立させた生産性の高い製盤設計を推進している」

「Vnet/IPとは

「CENTUMは当社の独自技術で構成し、高い評価を得てきたが、技術の急速な進歩と市場変化に対応するため、外部技術の導入が不可欠となった。その一つがインターネット・プロトコル（IP）ネットワーク化（Vnet/IP）だ。独自技術で構成したシステムに汎用のIP技術を

社会貢献の使命感が原動力



長年開発に携わってきたCENTUMと赤羽氏

取り入れ、システムの大規模化や適用範囲拡大を可能とした」

「開発での苦労は

「新しい技術を取り入

「乗り越え方は

れる一方、大切にしていた品質や信頼性などの価値を維持することが大きな課題だった。IPネットワークなどの技術はCENTUMとは異なる価値を持っており、両者を組み合わせる新たな価値を創出することに苦労した」

「CENTUMの価値をあらためて学び直して過去の製品がどのように実現していたかを調査・分析し、新技術で置き換える方法を徹底的に議論した。新しいことにチャレンジしているという充実感と、完成すれば社会貢献につながるという使命感も困難を乗り越える原動力となった。また、困難な状況をも乗り越えた仲間が存在も大きく、心から感謝している」

「今後の目標は

「横河マニユファクチャリングは生産を担う組織として生産現場で培われた知見を有している。知見をフィードバックし、魅力的でありながらも量産性・品質・コストのバランスが取れた『モノづくり』を実現することでより良い製品を生み出すことが目標だ」

あかばね・くにはる

「後輩に伝えたいこと」
「技術者は常にチャレンジジャーであってほしい。未知の領域に果敢に挑み、新しい価値を創造する姿勢こそが未来を切り開く原動力になる」と信じている」

ビジネス視点の開拓者に

刻む

新しい課題に直面するたび「自分を成長させるチャンス」と捉え、学び続けてきた赤羽さん。若手技術者には創業の精神「品質第一主義・パイオニア精神・社会への貢献」に加え、「ビジネス視点のある勇気を持った開拓者であってほしい」と語る。赤羽さんを通じて横河電機の開発者魂が脈々と受け継がれていく。
(松井美濃生)